

札幌・ポートランド姉妹都市提携 65 周年を迎えて

札幌市長 秋元 克広



1959 年 11 月 17 日、両市にとって初めてとなる姉妹都市の盟約を結んで以来、札幌市とポートランド市は、市民同士の草の根の交流を中心に多様な交流を積み重ねながら、2024 年には提携 65 周年という節目の年を迎えました。

6 月には、提携 65 周年を記念した訪問団を結成し、私自身としては 5 年ぶりにポートランドを訪問しました。前回の訪問後、世界では様々な出来事があり、新型コロナウイルス感染症の流行により両市における交流もオンラインによる非接触のコミュニケーションを余儀なくされるなどの影響を受けました。そのような困難な時期を経ても変わらぬ両市の深い友情の絆を確認できたことは、この訪問における最大の収穫の一つであります。

とりわけ、ポートランド最大のお祭りである、ローズ・フェスティバルのグランド・フローラル・パレードに参加した際、ポートランドの最初の姉妹都市として札幌がアナウンスされる度に、沿道から「サッポロ、サッポロ！」と歓声が上がったのは、この訪問におけるハイライトの一つでありました。

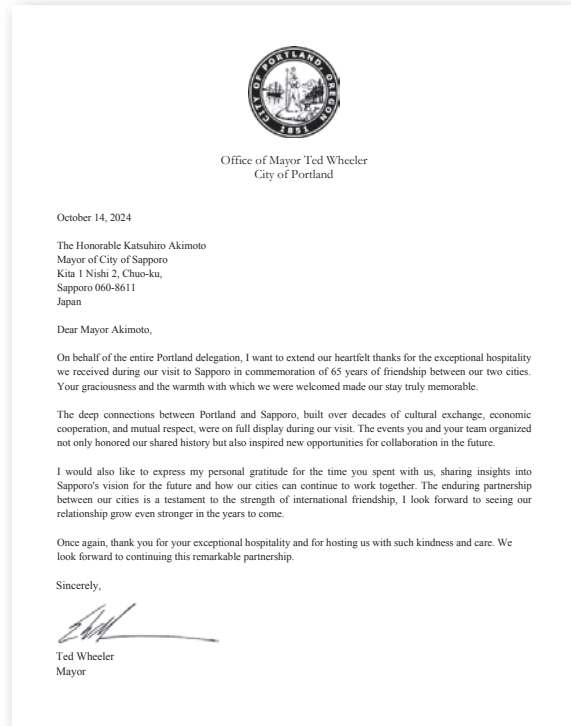
9 月には、ウィーラー市長をはじめとするポートランド市の訪問団を札幌にお迎えし、実りの秋を迎えた北海道・札幌の食を楽しむイベント、さっぽろオータムフェストにご参加いただきました。また、65 周年を記念するビジネス向け、市民向けセミナーの開催を通じて、市民や企業の皆さまと直にふれあいながら、ポートランドについて理解を深める機会も設けていただきました。

その後、11 月には、本市と株式会社コロンビアスポーツウェアジャパンとの間で「持続可能な世界都市さっぽろの実現を目指す包括連携協定」を締結しました。これは、6 月にポートランドを訪問した際、コロンビアスポーツウェア本社を訪問したことがきっかけとなり締結に至ったものであり、これからの取組の展開が大いに期待されることです。

65 年前に姉妹都市提携を結んだ札幌市とポートランド市は、その長きにわたる姉妹都市交流の中で、それぞれの市民が、お互いの文化やまちづくりを知り、学び、実践することで、それぞれのまちの魅力を高めてきました。先人たちのこれまでの努力に感謝と敬意の念を持ち、この深い絆を礎としつつ、この良質で素晴らしい交流が、この先、70 年、80 年、100 年とたゆみなく続いていくことを願っております。

65 周年に寄せて

ポートランド前市長 テッド・ウィーラー



ポートランド訪問団を代表し、姉妹都市提携 65 周年記念の札幌訪問の際の格別のおもてなしに、心より感謝いたします。ご親切に暖かく歓迎していただき、今回の訪問が真に忘れがたいものとなりました。

何十年にもわたる文化交流、経済協力、そしてお互いを尊重しあうことで育まれたポートランドと札幌の深い繋がりを、今回の訪問ではっきりと見ることができました。市長と職員の皆さんがご用意くださったイベントは、共に培ってきた歴史に敬意を示すだけでなく、未来の協力関係の新しい機会にも気づきを与えてくれるものでした。

ご一緒いただいた時間、そして札幌の未来の構想や今後どのように 2 つの都市が連携していけるのかをお示しくださったことに、個人的にお礼を申し上げます。私たちの都市の強いパートナーシップは国際的な友情の強さの証となっています。

この度のひとかたならぬおもてなし、ご親切なお心遣いに重ねてお礼申し上げます。この素晴らしい関係が今後も続くことを期待しております。

札幌とポートランドを結ぶ橋

札幌姉妹都市協会 会長 岸 光右

1959年の姉妹都市提携から65年もの歳月を超え、札幌市とポートランド市は広く・深く・濃い交流を続けてまいりました。

交流の担い手は行政のみならず、芸術・スポーツ団体、教育機関、市民ボランティアなど多岐にわたり、様々な絆が受け継がれてきています。とりわけ市民ボランティアの活躍なくして、現在までの強い信頼で結ばれた交流は続けてこれなかったと思います。

本誌でも紹介されている2012年から継続する札幌市立高校とポートランド・グラント高校との高校生相互派遣事業や、両市のボランティアが数年にわたって連携し、古い日本語の資料を現代の英語に翻訳して後世に残す事業などは、その大きな成果と言えることでしょう。

65周年を記念して札幌の市長団がポートランドを訪問した際も、またポートランドから市長や市民の方々が来札された際も、両市の多くの市民の方々にご協力をいただいて交流事業を行い、親交をさらに深めることができました。

ポートランド側でこの信頼関係の礎となってくださっているのが、1969年に設立されたポートランドー札幌姉妹都市協会（PSSCA）であり、65周年記念で来札された際の代表ご挨拶では、両市の親交を『懸け橋』と表現され、相互の訪問がこの橋をより力強くしているとお話くださいました。

これまでこの橋を築き、維持されてきた関係の皆様方の多大なるご貢献に心から感謝申し上げますと共に、今後もぜひこの橋を大切にしてお互いの都市を行き来し、様々なものを持って行ったり持ち帰ったりしながら、『橋のまち』ポートランドとの交流がさらに強固になるように願っています。

どうかこれからもこの温かな姉妹都市交流へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

65周年を迎えて ～変わっていくこと、そして変わらないもの

ポートランドー札幌姉妹都市協会 会長 菊地 真巨

ポートランドと札幌の姉妹都市関係が始まった1959年、私はまだ生まれていませんでした。そして、2059年に100周年を迎えるとき、自分がそこに立ち会えるかどうかは分かりません。けれども、不思議な安心感と確信があるのです——そのときにはきっと、盛大なお祝いが行われるだろうと。

昨今のパンデミックや急速なテクノロジーの進化を経て、社会も私たちの活動も大きく変わりました。パンデミック中は多くの対面イベントが中止になり、ミーティングはオンラインで行われるようになりました。そんな風に何もかもが急激に変化するなかで迎えた65周年ですが、同時に「変わらないもの」もたくさんあることに気づかされました。

たとえば、札幌からの皆さんに空港で再会できたときの喜び。イベントに参加する人々の笑顔。札幌を訪れるポートランド市民のワクワクした様子。そして、両市の市長や市民が実際に顔を合わせて対話し交流を深め、お互いの街や文化を学び合い、美味しいものを一緒に味わって、かけがえのない思い出を作っていくことの大切さです。

6月に札幌からの訪問団を迎えてポートランドで行われた歓迎レセプションには、数十年前に高校生として札幌に行ったことがあるというポートランド市民が参加してくれ、さよならパーティでは、夏に札幌でホームステイをする高校生が一生懸命日本語を使って札幌からの訪問団に挨拶をしてくれました。また、秋に札幌を訪れたポートランド訪問団は、市民向けセミナーにゲストとして参加し、オータムフェスタで秋の味覚を楽しんできました。

社会やテクノロジー、そして私たちを取り巻く環境がどれだけ変わっても、このような交流の核にある「人と人がふれあう喜び」は、これからも変わらないはずです。私たちがその楽しさと素晴らしさを次の世代に受け渡していくことで、きっと70周年もその先も、ポートランドと札幌をつなぐ友情は続いていくと私は信じています。